

1

(1・2・6 各完答)

1 A カ
B オ
C エ

2 I 直接
J 上の
II どう
J れる

3 文化背景
4 ウ
5 イ

6 I 日本で作
II 政治問題

7 誤解
8 IV

9 a 体験
b 古典
c 各地

d 事例
e 機会
f 共有

2

(5 完答・順不同 6 完答)

1 イ
2 半信半疑
3 守備では

4 手招き
5 ウ
6 A オ
B ア

7 ホームランにはなら

8 あるわけねーだろ
9 (記述題)

2

9 南沢選手の引退後はスタジアムに来る気はなかったし、「来い来い来い」の不思議な力も信じていなかったが、これから何年も先まで、南沢選手からもらったユニフォームを着て、南沢選手を元気にした「来い来い来い」をスタジアムでしたいと思うようになった。

(同意可)

配点	
1	9
2	9
その他	
各2点×6=12点	
8点	
各5点×16=80点	
100点	

1

1 (A) は「問いかけの文の直前」である。話している内容について視点や論点を切り替えるときに使われる「では」が入る。(B) は直後の「文学作品、アニメなど」といった具体例や直前の段落で書かれた「想像上の読者」を文末の「…と想像してみよう」で実際に想像させようとしているところから、話している内容をより具体的に話すときに使われる「たとえば」が入れられよう。(C) は直前の段落で「黙って行うことは評価される」と肯定的に書かれている一方で、直後の段落では「(そのような) 職人芸的な姿勢だけでは、かえって誤解を生み、広げてしまう」と否定的に書かれているので「しかし」が入る。

2 線①の直後に『世界の読者』とは…ではない」という否定の言い方がある。これによって、後続の文が重要であることが確認できる。また、本文十五行目の冒頭に「このように」とあることから、「想像する」ことの具体的な内容が手前で示されていることが確かめられる。◎の文にある、「日本の文学や文化」にも注目しよう。

3 「読みかた」についての説明が続く——線②の直後の段落の後半が「しかし」で強調されていることを意識できていれば、「文化背景が違っても…」の部分に着目できるはずである。

4 直後の具体例だけで判断しようとしてはいけない。③の七行後の「こうした」でまとめられた内容に着目しよう。「…日本中心の視点を離れていない」とある。

5 疑問の形で反対の内容を強調する「反語表現」はたいへん重要である。「うだろうか？ (↓いや、↑ではない！)」という言いかえを意識しておこう。

6 文章の後半で「…だけでなく、…にも同じことが言える」というようなことが強調される場合、その部分にしっかりと注目しておく。最後の一文は、「このことは…に限らず、…という問題にも通じる」となっている。設問で「問題」が二つ問われているところから、並列表現の「また」もヒントになっていることに気づいてほしい。

7 本文の末尾に近い「かえって誤解を生み、広げてしまうことが多い」の部分が「筆者の批判」であることに注目したい。

8 脱文の中に「指示語・接続語」があれば、それを手がかりに「直前の内容」を考える。「そして」「そのためには」「そうした人々」という言葉から、「何を考えているかを想像することを手段とした」「目的となる行動」が説明されている部分をさがせばよいということが分かる。

9 aの「駿」やeの「機」などの画数の多い字においては、細かい部分の正確さに特に気をつけなければならない。bの「古」やcの「各」は、それぞれ似た形の「吉」「名」としないように注意しよう。eの「機会」は同音異義語にも注意しよう。

2

1 線①の前後に注目する。南沢選手は、野球選手としては高年齢の三十九歳であり、ひざのケガもあるので、もう引退の潮時である、という父さんの言葉は理解できるのだが、ファンとしてはもっと応援していたい気持ちが強いので、「引退」という現実から目をそむけていたかったのである。

2 「本当にあるのか」と疑問に思っていることと、解答题紙の「□信□疑」というヒントから読み解こう。

3 父さんとしては、一塁を守っている南沢選手のファンである息子のために、南沢選手がよく見える一塁に近い内野席を取ってくれていたことが「息子思い」と言える。「ここより前からの」という設問のヒントを最大限に利用しよう。

4 ④が含まれる一文の冒頭に「おれも」とあることから、さらにその前に書かれている父さんと同じ行動をしていることが読み取れる。ただし、「さけぶ」では④のあとにある「していた」に合わないのと同じ行動をしていた場面をさがすと、——線①の六行後から七行後にかけて「両手を前に出して、手招きし始めたのだ。『来い来い来い来い！』」とあることから「手招き」していることが分かる。

5 線⑤の直前にある「もう引退セレモニーも終わっちゃった？」「ああ、終わった」という二人の会話から、エはすぐに選べるだろう。「ますます」は何かをつけたときに使われる表現なので、さらにその前にある父さんの「もちろん、譲るよな？」という発言と、それに対する「おれ」の「しぶしぶうなずいた」という行動から本当は譲りたくない気持ちであるところまで読み取っていい。

6 線⑥の直後に「二人の前には、南沢選手がいた。近くで見ると、こんなにでかいのか」とあることから、本物の南沢選手が突然あらわれたことに驚いていることが分かるだろう。「おれ」は「悲鳴をあげてのけぞってしまつて、ベッドに再びすわりこん」でしまったわけだが、父さんはこのような表出になったのである。——線⑨の三行前で「すごいなー、おまえ、よくふつうにしゃべれたな！ お父さん、ビビッて何にも話せなかったよ」という、南沢選手がいなくなったあとの父さんの発言もヒントになるだろう。

7 ⑦の三行前で「外野にボールが飛んでくると、ファンがさけぶんです。手招きするんです。それでホームランになる、って思ってる人たちもいるんです」と言った直後に「…よく考えたら失礼だ。みんなが手招きしなければ…」と続くので、「手招きするとホームランになる」手招きしなければホームランにならない」と南沢選手本人に言ってしまったことになる。内容を考えてつくことは難しくないが、きれいにあてはまる部分を見つけるには——線②の十行前まで戻らねばならない。内容を考えた上で丁寧にさがしていい。

8 ⑧の直後に「悠真ならそういういそうだ」とあるので、悠真の出てくる場面をさがすと——線②の直後に「あるわけねーだろ！」という悠真の発言がある。主人公以外の登場人物についての問題では該当する人物が出てくる場面に気をつけよう。

9 「以前の気持ちとのちがいにふれながら」とあるので、——線⑨の場面以前の「おれ」の気持ちと、このときの「おれ」の気持ちの変化を説明する。以前は、「来い来い来い」というさけびと手招きが起こす奇跡を信じていなかったし、南沢選手が引退してしまうので、スタジアムに来て応援する意味も見出せなかったが、実際に「おれ」も「来い来い来い」をしたことによって、南沢選手の打球がホームランになっただけでなく、南沢選手と直接話せ、ユニフォームももらえ、さらに、南沢選手を元気にさせたので、「来い来い来い」の不思議な力を信じ、今後もスタジアムでやりたくなったのである。さらに、もらったユニフォームを着て応援に来ている自分の姿を南沢選手に見てもらいたいという思いも、スタジアムに来ることのモチベーションの一つになったことも加えるとよい。